

朝の館内放送

令和6年10月7日

おはようございます、市長の中村健です。

先週、中部歴史まちづくりサミットに出席するため、三重県伊賀市に行ってきました。

伊賀市というと、忍者をイメージする人も多いと思いますが、実は俳人の松尾芭蕉の生誕地でもあります。

そして、今年度は芭蕉生誕380周年ということで、市内でも様々な顕彰企画が予定されているそうです。

さて、松尾芭蕉と関係の深い言葉の一つに「不易流行」があります。

「奥の細道」の旅の中で体得した概念だといわれていますが、「不易流行」は「いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねているものをも取り入れていくこと」を意味します。

非常に物事の本質を突いた考え方だと思います。

これを私たちの仕事に即して考えると、時代と共に社会経済情勢や人々の価値観も移り変わります。

それを受けて、当然、仕事のやり方も変えていく必要があります。

これまでのやり方に執着して、変えようとする姿勢を持たないのは、基本的にナンセンスだと考えます。

しかし、これまでのやり方をすべて否定することが適切なのかといえ、必ずしもそうではありません。

変えることにこだわるが故に本質的な部分を失ってしまうとすれば、それは本末転倒です。

そこで重要となる考え方が、先ほど申し上げた「不易流行」です。

いつまでも変化しない本質的なものを忘れないということと、新しく変化を重ねているものをも取り入れていくということを両立させるのが大事なのです。

10月に入り、いよいよ来年度予算の編成作業が本格的に始まります。

「不易流行」の観点で一つひとつの事業を見つめ直し、最小の経費で最大の効果を発揮できるよう協力をお願いします。

以上で、朝の館内放送を終わります。